

千葉大学医学部附属病院で脾周囲液体貯留と診断された患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年10月8日
消化器内科

消化器内科では、脾周囲液体貯留の治療経過および予後に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に診療情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2010年1月1日～2025年9月30日までに当院で脾周囲液体貯留と診断された患者様の診療情報を収集します。

1. 研究課題名

「脾周囲液体貯留の治療経過および予後に関する研究」

2. 研究期間

2025年承認日～2027年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

本研究は、脾臓の炎症（急性脾炎・慢性脾炎）や外傷、脾の手術後などに起こる脾周囲の液体貯留や脾液の漏れについて、その治療の成績と安全性を明らかにすることを目的としています。これらの病態は感染や出血などの重い合併症を起こすことがあります。内視鏡を使った体内からのドレナージや皮膚からのドレナージ、手術などの治療が行われますが、どのような条件でどの治療が有効か、再発や合併症の危険因子が何かについては十分にわかっていないません。本研究では、当院で過去にこれらの治療を受けた患者さんの診療録や画像データを用い、治療の効果や合併症、再治療の必要性、長期的な経過などを後ろ向きに解析します。新たな検査や治療は行わず、個人を特定できる情報は加工して取り扱います。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、性別、日常生活自立度、生活歴（飲酒・喫煙など）、職業歴、既往歴、併用薬、家族歴、血液検査値、画像検査、採取された検体の情報、治療成績など。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：消化器内科 講師 大山広

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院消化器内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。
情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

消化器内科 講師 大山広
043(222)7171 内線5241